風の萌

特定非営利活動法人（NPO）
在宅ケアを支える診療所・
市民全国ネットワーク機関紙

第 045 号

2019 年 4 月 8 日

安心して子育てができ　老いても障がいがあっても　自分らしく暮らすことができる　コミュニティーの創造

第25回 全国の集い in 東京2019 に向けて

東京大会の三嶋大会長から全国大会への紹介文を頂きました。
特に、三嶋先生の地元でもある佐倉プレ大会に向けて熱く語っておられます。
改めて大会長の全国大会に掛ける思いが伝わってきます。

皆様、初めまして。千葉県佐倉市で在宅専門の診療所「さくら風の村訪問診療所」を開業しております三嶋泰之と申します。この度、第 25 回全国の集い in 東京 2019 の大会長に任命されました。医師としての経験や肩書、人脈のほとんどない私が大役を仰せつかることになった経緯はいまだに不明ですが、多くの方々のお力をお借りしながら準備を進めているところでございます。

今大会は地域医療研究会の全国大会との合同開催という初の試みとなります。当ネットワークと病院医師が主体の地域医療研究会がタッグを組むことで、切れ目のない在宅ケアを目指す大きな転機になることを期待しております。

堂垂先生（今大会の実行委員長）が主体となって 1 月に東京大学安田講堂で開催されたプレ大会では、在宅ケア・在宅医療の先駆者からの熱いメッセージが発信されました。それを踏まえて今大会のテーマ「みんなでつくる地域包括ケア～地域共生社会を目指して」にどのようにつなげるかが大きな課題で、現在、実行委員全員で魅力的でかつ実践的な企画を練っております。

ところで、在宅ケアの主役となるのが患者・利用者ということに異論はありませんが、地域包括ケアや地域共生社会の完成が「亡くなったら終わり」となっていることに多少の違和感を覚えます。家族など介護・看病に当たっていた人の時間はその後も続くのです。そうしたことから、当ネットワークの趣旨とは外れてしまうと思いながらも、私個人としてはグリーフケアにも光を当てたいと考えました。そこで 5 月 25 日に佐倉市で開催予定のプレ大会では「グリーフケア～その日まで、その日から」をテーマに掲げました。興味を持った方はぜひ足をお運びください。9 月の本大会でも同様の趣旨での企画を考えております。

なお、7 月には 2020 年開催予定地の長崎でもプレ大会が行われることになっております（長崎プレ大会　2019 年 7 月 15 日　場所：大村市）。

このように、本大会へ向けて実行委員は奮闘しておりますが、その核となるのは例年どおり実践交流会です。皆様の日々の活動状況や経験したことを多くの人に知ってもらう絶好の機会です。また、皆様の実行していることが間違っていないかを確認するまたとない機会でもあります。堅苦しい場ではありませんので、気負うことなく積極的に応募していただきたいと思います。

残り半年を切りました。皆様のご協力なしには成し遂げることが不可能ですが、これまで 24 回の全国の集いの歴史を汚さぬよう出来る限りの力を注いでまいります。9 月 15 日、16 日に皆様とお会いできることを楽しみにしております。

2019 東京プレ大会
「“2019 団塊・君たち・未来”の会」報告

2019 年 1 月 12 日、東京大学安田講堂で“2019 団塊・君たち・未来”と題してプレ大会を開催しました。本会には、北は北海道、南は鹿児島までの 35 都道府県（他に台湾も）から、約 500 人の参加がありました。会終了後の中央食堂での懇親会にも多数の方が参加され熱気あふれる会となりました。

“本文”ボタンをクリックして下さい。
発表者のページへ移動します。
元に戻す場合はページ上の“戻る”を
クリックして下さい。

戻る

挨拶

堂垂伸治 氏
本　文

苛原　実 氏
本　文

飯島勝矢 氏
本　文

亀井克典 氏
本　文

第1部 地域包括ケアと私たちの責務

司会　亀井克典氏（地域医療研究会　副会長）

「在宅医療のこれからと 2040 年」
新田國夫 氏（全国在宅療養支援診療所連絡会会長）
本　文

「団塊世代の責務」
結城康博 氏（淑徳大学教授）
本　文

第2部 団塊～次世代が語る

司会　平野敏夫氏（亀戸ひまわり診療所、労住医連副議長）
　　中嶋久矩氏（NPO ネットワーク理事）

平野敏夫氏

中嶋久矩氏
本　文

「高齢者の人権と平和憲法」
山下　江 氏（山下江法律事務所代表）
本　文

「介護現場から社会を変える」
三好春樹 氏（生活とリハビリ研究所）
本　文

「外国人医療から見た憲法の危機」
沢田貴志 氏（港町診療所）
本　文

「下流老人の問題提起とその意義」
藤田孝典 氏（社会福祉士 NPO 法人ほっとプラス）
本　文

「域包括ケア・石巻市の経緯と現状」
長　純一 氏（石巻市立病院開成仮診療所）
本　文

「医学教育はどうあるべきか」
阿部知子 氏（衆議院議員・立憲民主党）
本　文

“本文”ボタンをクリックして下さい。
発表者のページへ移動します。
元に戻す場合はページ上の“戻る”を
クリックして下さい。

戻る

黒岩卓夫 氏
本　文

3部 未来を語る

司会　黒岩卓夫氏（医療法人萌気会）

鎌田　實 氏
本　文

「地域包括ケアと健康民主主義」
鎌田實（諏訪中央病院名誉院長）

黒岩卓夫 氏（医療法人萌気会）
相澤　力 氏（湘南中央病院）
上野千鶴子 氏（東京大学名誉教授）
前田和男 氏

「第 25 回 全国の集い in 東京 2019」紹介

東京大会大会長　三嶋泰之（医療法人佐倉の風　さくら風の村訪問診療所）

三嶋泰之 氏
本　文

<大会を終えて>

大会長　堂垂伸治

堂垂伸治 氏
本　文

本号２頁及び３頁において試みたこと、およびび今後の方向性について

今号は堂垂実行委員長の作成された「プレ大会報告」の掲載にあたり、発表された方々の写真に講演内容を埋め組んで(リンク)みました。

配布手段を電子配信に変えたことにより、その特徴を生かしたコンテンツにすべく今後も工夫を重ねてまいります。

今回のような表示形式の他、

〇音声、動画等への対応

〇フォーム機能を利用した双方向の情報交流を目指せるか？

〇スマホやタブレット等に対するレイアウトの検討

等を意識しつつ検討を行います。

一方、結果として今回はデータ量が多く(重く)なったため前回のような PDF 添付という形での配信を行わず、会員各自でのダウンロードという形をとらせて頂きました。

盛り込む内容が多様化すればするほど「手軽な配布」からは程遠くなるデメリットも生じます。

これらのことを踏まえ、他の会員交流ツール(WEB会議室、ホームページ)との共存を意識しつつ、もちろん本来の『会報』の役割を見失う事の無きよう今後ともコア会議や理事会で皆様のご意見を伺いつつ進めていきたいと考えております。

理事会報告

2018 年度　第 3 回理事会

日　時：2019 年 2 月 24 日（日）　9：15 ～ 12：00
場　所：貸会議室プラザ八重洲北口　3F　6 号室
出席理事：秋山 由美子、石田 一美、石田 賢二、苛原　実、大石 佳能子、大川 延也、大澤　誠、小倉 和也、金井 秀樹、黒岩 卓夫、桑原 由次、小山　亨、長　純一、中嶋 久矩、畑　恒土、萩田 均司、福田 善晴、藤村 淳子、三嶋 泰之、村山 善紀、吉永 隆行
欠席理事：青木 佳之、太田 秀樹、岡崎 和佳子、沖倉 紅児、金田 弘子、多湖 光宗、中嶋 啓子、中島　肇、長縄 伸幸、西嶋 公子、新田 國夫、宮坂 圭一、森本 益雄　（敬称略）

2018 年度第 3 回理事会が開かれました。秋の全国の集いに向け着々と準備が進められています。
実践交流会のカテゴリー及び担当座長が決定いたしました。
一部の名称の変更以外は昨年と同様の 9 つのカテゴリーで行います。
今後、演題募集についてのご案内を開始いたしますので会員の皆様からの申し込みをお待ち申し上げます。

カテゴリー名	担当理事	東京大会座長
①　在宅生活の継続	森本、小倉、石田（一）、宮坂	小倉
②　訪問サービス&通所サービス	福田、沖倉、岡崎	岡崎
③　緩和ケアと看取り	新田、苛原、中嶋（啓）、三嶋	中嶋（啓）
④　人材育成・教育	長縄、大石、桑原	桑原
⑤　地域で支える認知症ケア	村山、多湖、西嶋、大澤	多湖
⑥　口腔ケアと栄養管理	小山、大川、青木	大川
⑦　地域包括ケア	長、太田、金田、秋山	秋山
⑧　新しい試み	畑、藤村、中嶋（久）、黒岩、吉永	吉永
⑨　薬の医療介護連携	金井、萩田、石田（賢）、中島	萩田

私のこだわり

生の三徴候（せいのさんちょうこう）

「房総半島の先っちょの松永です」多少のバリエーションはありますがいつもこんな書き出しで東京大会の実行委員会宛にメール送って頂く松永先生に今回は原稿をお願いいたしました。メールの冒頭から緊張が解け、癒され、ほっとする・・・そんな気遣いが感じられる先生の「こだわり」を今回はご紹介いたします。

松永 平太　松永醫院　理事長
（千葉県南房総市）

死の三徴候、心拍停止・呼吸停止・瞳孔散大があるのならば、生の三徴候もあるだろう。

生の三徴候、これを持って生きている。逆に生の三徴候がなくなれば、そろそろ寿命かな。

そんな生の三徴候は**「食べること、笑うこと、愛されること」**だと、私は考えています。

美味しいものを食べて怒る人はいません。人が楽しく笑うことを怒る人もいません。

美味しいものを食べて、楽しく笑い、思いを共有できるときほど幸せなことはないです。

だから、「食べること、笑うこと、愛されること」にこだわって来ました。

30年以上レストランで腕を振るってきたシェフに来ていただき、赤、白、黄色、緑などのカラフルな料理を作っています。日頃食欲のない人がペロリと完食、「どんな料理でしたか？」という私の質問に、「横文字だったか、箸と（ハッシュド）ビーフ千倉風？何が何だかわからないけどとにかく旨い！」と答えています。おやつも全て手作り、クレープシュゼットオレンジ添え。季節のイベントに合わせて、お花見弁当、チラシ寿司、バイキングなどでもてなしています。お風呂に入り、みんなで美味しい美味しいと言って食べる昼ご飯、おやつは、至福の時です。みんな笑顔になっています。

デイサービスセンター「あそぼ」に、あるレストラン厨房で責任者をしていた若き天才シェフがやって来ました。そしたらもう一人、何でかフランスまで修行に行った若き天才フレンチシェフまでもが仲間に入って来て、認知症の人たちに腕を振るっています。

いのちを支える医療とは、「いのちを助け、いのちを元気にし、いのちを輝かす」医療のことを言うのだと思う。元気になるためにはゴソゴソ動き、ゴソゴソ動けばニコニコになり、生き生きとなり、いのちが輝き始めます。いのちの輝き具合の目安は、笑顔となります。

私の名刺のトップには、赤字で「日本一、地球一、笑顔を集めるグループへ」と書いてラッパを吹いております。松永醫院の封筒にも「あなたの笑顔は、わたしたちの力」という文字を入れています。医療法人と社会福祉法人と会社法人の３つの法人を「笑顔グループ」と名付けました。

マザーテレサは云う「戦争は不幸だが、愛のないのも不幸」。彼女のキーワードは「愛」。

山の中の病院で面会もなく唯ベッドの上で死を待つ人のように、自分の存在を認めてくれる人がいないのは不幸です。誰かに愛され、存在を認めてもらうことは大切です。ただ、誰にも愛されない人でも私たちに出会えば、私たちがその人を愛します。つまり、生の三徴候の３つ目である「愛されること」は、全ての人に保証されることになります。孤独で生きてきた人でも、私たちと出会えば家族にかわって愛します。

私は、生の三徴候「食べること、笑うこと、愛されること」にこだわります。逆に食べなくなり、笑うことができなくなれば、そろそろ寿命となりお迎えが近くになります。**最後の最期までいのちを支え、真心を込めてQOD・満足死を達成すること**が私たちのミッションであり、私のこだわりです。

【ホームページ「笑顔グループ」で検索】

医療法人社団優和会　松永醫院
〒295-0021
千葉県南房総市千倉町平館７６４－１
TEL：0470-44-0385　FAX：0470-44-0901

リレー寄稿

住み慣れた街で安心できる共生サービスの提供を目指して・・・

―埼玉県さいたま市―

有限会社 ぽけっと
代表取締役
上田 浩美

（ケアマネージャーオフィスぽけっと・訪問看護ステーションぽけっと・ヘルパーステーションぽけっと・保育ルームぽけっと：企業主導型保育室）
一般社団法人 ぽけっとの輪
理事 上田浩美
（デイルームぽけっと：児童発達支援）

戸田の小林先生からバトンを受け取ったぽけっとの上田です。精神疾患で入院中の方を広島に墓参りに連れて行くというボランテイア使命のさなかに、戸田の小林先生から数年ぶりの電話。何のご用かと思って聞いていると、今回のこのリレー寄稿を受け取って欲しいという依頼でした。小林先生の地域、戸田市からさほど離れていないさいたま市ですが、政令指定都市でもあり戸田市とは若干異なるところがあるかもしれません。また、私自身の事業として、昨年４月より、児童発達支援（医療的ケア児の）を開設したことも少しお話させて頂きたいと思います。

埼玉県さいたま市、私が住む浦和という地域は、駅名に、浦和、武蔵浦和、中浦和、西浦和、東浦和、南浦和、北浦和という名前があることでも有名です。浦和⇔東京は 26 分、武蔵浦和⇔新宿も 26 分。東京のベッドタウン。地方や都内からの呼び寄せ高齢者も多数。さいたま都民と呼ばれています。さいたま市の南区には高層マンションが建ち並び、小学校は 1000 人超えの学校が数校。南区だけをとってみれば大変若い地域のようにもみえます。ただし、呼び寄せ高齢者の影響もあり、介護保険の申請者数はうなぎ登りのようです。因みに鰻は浦和の名物でもあります。中山道、蕨宿、浦和宿という昔ながらの宿場町の影響でしょうか。

さいたま市に住んで大凡 30 年その大半を在宅医療、介護、看護に関わって過ごしてきました。そんな中での実感は、都内に依存した地域という言葉が当てはまる様な気がします。通学も通勤も都内に向かい、事故に遭った時の救搬も、都内の病院。会社で倒れた時も都内の病院へ搬送。よって、定年退職の頃まで、地元にかかり付け医を持たない家庭も多数です。必然と地域のつながりも薄っぺらな繋がりとなってしまいます。地主と言われる人たちとそこの新しい住民は、そんな中で地域包括ケアシステムを構築しようとしています。地域包括ケアシステムの必要性を感じない中で、地域包括ケアシステムを構築していく苦労、並大抵ではないかもしれません。それでもお国からのお達し、地域包括ケアは絵に描いた餅かもしれませんが、存在します。

そんなさいたま市の取り組みについてお話しします。地域包括ケアについて、さいたま市では、『住み慣れた地域で”いきいき”と輝きながらいつまでも元気で自分らしく』支え合いとふれあい豊かな活力あるまちづくりを推進しています。介護が必要となる状態の前に予防効果の高い体操等を行うとともに、社会活動への参加、生きがいづくりといった要素に働きかけ、身近な地域で住民が主体となった、継続性のある運動が行えるよう支援を全市で展開しています。だそうです。なんだかありきたりであまり心に響いてこない文言なのですが、さいたま市としては、ここにエネルギーをかけている様です。取り組みの主な内容としては以下様です。

・介護予防について
・生活支援について
・家族介護者などの支援について
・認知症総合支援について
　認知症サポーターの支援等行っています。
・在宅医療・介護連携について

ここが私たち介護事業所のキーとなる支援ですが。自治体としてのスタンスは以下のようです。

医療と介護療法を必要とする状態の高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続ける事ができるよう、医療関係者の連携を推進し、在宅医療と介護を一体的に提供できる体制の構築を進めます。当市では４医師会との取り組みを行っています。

そもそも、４医師会との連携は大変ですよね。しかしこの地域には４医師会があります。そこと連携をとりつつ一体化を図るのはハードルが高すぎ。在宅医療頑張ろうと考えた医療機関は、撃沈している現状です。

・地域ケア会議について
　困難事例がある限り提案しています。
・シニアサポートセンターが主催する会議。

出席率は良いです。地域の問題点も認識しています。提案もできます。しかし開催日が限られていたりすることもあります。勿論担当者も。でも、ケアマネとして、最期に頼れる場所です。

これが、さいたま市南区の実情ですが、最終的に頼れる、ケアマネがあったり、訪問看護があったり、介護事業所や、訪問診療所が。で、なんとなくそれなりにできているのがさいたま市南区の実情ではないかと思います。今後の課題はおおきいかもしれません。でも、やりたい人たち、やってみたいひとが多いのもこの地域の特性のように思います。

介護保険以外の市民活動としては、健康麻雀や、カラオケなどがあります。驚くことに葬儀やさんが企画してくれています。他、介護施設へのボランテイア兼趣味活動で、演劇。子育て支援＋高齢者の安否確認事業など色々ボランテイアさんがあります。私もそのいくつかの事業に理事として参加しています。

地域性としては、地域包括ケアがしっくりこない、でも地域住民は危機感にさらされ、何か活動を始めている。それがこの地域の様に思います。

子育て支援についても同様です。障害があってもなくても、何らかの支援が必要。だって、昨今のようなニュース記事になりたくはありません。ネグレクト、虐待。

人口が少なくなくなる日本だから、子育て支援も必要。地域包括ケアで、高齢者も子供たちも支える仕組みが必要ではないでしょうか？当事業所の取組は、住み慣れた街で安心できる共生サービスの提供を目指して・・・です。

現在私がめざしサポートしようと考えているのは子育て支援です。高齢者を支えるため、子育て世代の介護者の支援が何より必要と考えています。地域は地域で守らなければ、地域の特性を生かした地域包括ケアになれればと日々試行錯誤です。

次回は、千葉県松戸市　ひぐらしのいえ　安西 順子さんにお願いします。（上田 浩美）

➡➡ 書籍紹介 ⬅⬅

当会の理事をされている大石様がまとめられた
出版物を紹介します。ご自身で書かれた
「紹介文」をそのまま掲載させて頂きます。

DESIGN MY 100 YEARS
100 のチャートで見る人生 100 年時代、

「幸せな老後」を自分でデザインするためのデータブック

大石 佳能子（著）　　出版社：ディスカヴァー・トゥエンティワン (2019/1/31)

急速に高齢化が進む日本で、全ての人が幸せな人生を自ら選択し、送ることが出来るよう、関連するファクトを整理しました。

- 何故、在宅医療や地域包括ケアなのか？
- どうすれば普及促進できるのか？
- 国、提供者、個人はどうすればいいのか？

などを考える上でのヒントになれば幸いです。

（大石佳能子）

活動予定

佐倉プレ大会
2019年5月25日
場所：佐倉市

第4回理事会
2019年5月26日
場所：東京

長崎プレ大会
2019年7月15日
場所：大村市

第5回理事会
2019年8月25日
場所：東京

全国の集い　東京大会
2019年9月15日・16日
場所：東京

広報誌として新たな記事配布を目指します

電子配信を機会に今号において「ちょっとした仕掛け」を試みてみました。

タイトルと講演者しか表示しておりませんが、写真部分をクリックすることで発表内容を読むことができます。これまでの印刷物と比較して多くの情報を見る事ができます。

今後は「印刷物との整合性」を意識しつつ新しい表現・配布方式を追及していきたいと考えております。音声・動画配信も含め広報誌としての可能性に挑戦いたします。

風の萌　2019年4月8日発行（第045号）

◆ 発行　特定非営利活動法人(NPO) 在宅ケアを支える診療所･市民全国ネットワーク
（いらはら診療所内）

TEL：047-347-2231　FAX：047-347-2551
http://www.home-care.ne.jp/net/　E-mail:tokyo-jimukyoku@home-care.ne.jp
〒270-0021　千葉県松戸市小金原4-3-2

◆ 編集「風の萌」編集委員

∞∞∞編集後記∞∞∞

すっかり春の日差しとなりました。
発行が遅れた事をお詫び申し上げます。
実践交流会の座長も決定し、東京大会への機運が盛り上がってきました。
多くの方々の発表をお待ち申し上げます。

（犬童）

2019 東京プレ大会
「“2019 団塊・君たち・未来”の会」報告

2019 年 1 月 12 日、東京大学安田講堂で“2019 団塊・君たち・未来”と題して会を開催しました。本会には、北は北海道、南は鹿児島までの 35 都道府県（他に台湾も）から、総数約 500 人の参加がありました。会終了後の中央食堂での懇親会にも約 180 人が参加され熱気あふれる会となりました。

“本文”ボタンをクリックして下さい。
発表者のページへ移動します。
元に戻す場合はページ上の“戻る”を
クリックして下さい。

戻る

堂垂伸治 氏

＜本会の性格＞

1　2019 年 9 月 15-16 日に「NPO 在宅ケアを支える診療所・市民ネットワーク 第 25 回全国の集い in 東京 2019」と「地域医療研究会全国大会 in 神奈川」の両団体による初めての合同大会が帝京平成大学（池袋）で開催します。今回の会は、そのプレ大会という位置づけでした。

2　2025 年には、1947 年～ 49 年生まれの「団塊世代」が全て 75 歳以上になり、「2025 年問題」と言われています。この世代は、量的にも質的にもこれまでの世代とは異なっています。今日、「地域包括ケア」や「地域共生社会」が唱えられていますが、「団塊世代」と次世代や若い世代に対し「医療・在宅医療・介護・福祉」という切り口で問いかけようと考えました。

3　50 年前の 69 年 1 月に「安田講堂攻防戦」がありました。当時、「学問とは何か」「大学とは何か」など、時の「常識」や「権威」を疑い物事の本質・根源を問いました。「団塊世代」はその後様々な人生をたどり、中には病に斃れた方もいます。今回の企画を通して「疾風怒濤の生き方」をしてきた方々が、「全共闘運動の聖地」とも言える安田講堂に集まる場を提供したいと考えました。

2019 東京プレ大会
「“2019 団塊・君たち・未来”の会」報告

2019 年 1 月 12 日、東京大学安田講堂で“2019 団塊・君たち・未来”と題して会を開催しました。本会には、北は北海道、南は鹿児島までの 35 都道府県（他に台湾も）から、総数約 500 人の参加がありました。会終了後の中央食堂での懇親会にも約 180 人が参加され熱気あふれる会となりました。

“本文”ボタンをクリックして下さい。
発表者のページへ移動します。
元に戻す場合はページ上の“戻る”を
クリックして下さい。

戻る

苛原　実 氏

＜苛原実氏の挨拶＞

「在宅ケアを支える診療所・市民ネットワークの会」は「安心して住み慣れた地域で暮らせる地域コミュニティの創造」を先駆的に目指して社会運動を展開してきた。今大会は、東大安田講堂事件から50年、今後の医療とケアのあり方について考えるきっかけになることを期待します。

2019 東京プレ大会
「“2019 団塊・君たち・未来”の会」報告

2019 年 1 月 12 日、東京大学安田講堂で “2019 団塊・君たち・未来 ” と題して会を開催しました。本会には、北は北海道、南は鹿児島までの 35 都道府県（他に台湾も）から、総数約 500 人の参加がありました。会終了後の中央食堂での懇親会にも約 180 人が参加され熱気あふれる会となりました。

“本文”ボタンをクリックして下さい。
発表者のページへ移動します。
元に戻す場合はページ上の“戻る”を
クリックして下さい。

戻る

飯島勝矢 氏

＜飯島勝矢氏の挨拶＞

2005年から2030年までに後期高齢者人口が倍増し、同時に認知症や独居高齢者も激増し多死時代に突入します。地域包括ケアシステムでは、「治す医療」から『治し支える医療』という原点に立ち返り、医療・介護関係者、行政、そして市民も含めた「まちぐるみでの活性化」が上手く進むかどうかに大きくかかっており、在宅ケアが素晴らしい方向に発展していくことを願っています。

2019 東京プレ大会
「“2019 団塊・君たち・未来”の会」報告

2019 年 1 月 12 日、東京大学安田講堂で“2019 団塊・君たち・未来”と題して会を開催しました。本会には、北は北海道、南は鹿児島までの 35 都道府県（他に台湾も）から、総数約 500 人の参加がありました。会終了後の中央食堂での懇親会にも約 180 人が参加され熱気あふれる会となりました。

“本文”ボタンをクリックして下さい。
発表者のページへ移動します。
元に戻す場合はページ上の“戻る”を
クリックして下さい。

戻る

亀井克典 氏

第 1 部　司会は地域医療研究会の副会長である亀井克典氏（医療法人生寿会理事長）でした。

2019 東京プレ大会
「“2019 団塊・君たち・未来”の会」報告

2019 年 1 月 12 日、東京大学安田講堂で“2019 団塊・君たち・未来”と題して会を開催しました。本会には、北は北海道、南は鹿児島までの 35 都道府県（他に台湾も）から、総数約 500 人の参加がありました。会終了後の中央食堂での懇親会にも約 180 人が参加され熱気あふれる会となりました。

“本文”ボタンをクリックして下さい。
発表者のページへ移動します。
元に戻す場合はページ上の“戻る”を
クリックして下さい。

戻る

「在宅医療のこれからと 2040 年」

新田國夫 氏（全国在宅療養支援診療所連絡会会長）

新田國夫氏は、人口や高齢化率の長期展望を紹介され、在宅医療の意義を説かれた。家族形態の変化、人口減少社会、社会のひずみ（孤立と格差）という変化に対し、今後の高齢者医療や介護の目指すべき像が語られた。視点として、①世界に例のない少子高齢・人口減少社会②ケアニーズの変化と健康寿命・QOL・QODの確保③技術のイノベーションと保険制度の調和④今世紀後半、医療費の増加より介護・生活支援費用がかさむ社会の到来の４点をあげ、2040 年の社会保障の展望を示された。

2019 東京プレ大会
「“2019 団塊・君たち・未来”の会」報告

2019 年 1 月 12 日、東京大学安田講堂で “2019 団塊・君たち・未来 ” と題して会を開催しました。本会には、北は北海道、南は鹿児島までの 35 都道府県（他に台湾も）から、総数約 500 人の参加がありました。会終了後の中央食堂での懇親会にも約 180 人が参加され熱気あふれる会となりました。

“本文”ボタンをクリックして下さい。
発表者のページへ移動します。
元に戻す場合はページ上の“戻る”を
クリックして下さい。

戻る

「団塊世代の責務」
結城康博 氏（淑徳大学教授）

結城康博氏は、まず団塊世代の現状、生産年齢人口の減少と高齢者の増加を具体的に示し、団塊世代、団塊ジュニア世代、さらにその下の世代を比較された。その上で、「団塊を支える世代」特に支える介護職員の厳しい現状に言及された。「団塊世代は孫世代に責任を持つ発想が必要」「団塊以後の世代はまともな社会保障の給付も受けられない可能性がある」「団塊世代相互による所得・資産の再分配が必要」と指摘されました。

さらに、介護現場の人手不足は深刻で、これから介護を受ける側は「好かれる協調性を持った高齢者になるべき」と語られた。具体的には、①要介護者になったら「支えられ上手」に② 介護サービスは「口コミ」が大事③元気なうちから親子で「介護」について話す④相談できる人や機関を確認しておこう⑤かかりつけ医を持つこと⑥70 歳まではアルバイトでも働き続けようと、まとめられました。

会場とのやり取りでは、以下のような発言がありました。

① 現場では利用者第 1 とされ、何かあると行政から注意されるというのが実情である
② 好かれる高齢者になるには、介護や医療を受ける高齢者への教育も必要である
③ わがままな方も含めて相互協調して対応してゆく。

2019 東京プレ大会
「“2019 団塊・君たち・未来”の会」報告

2019 年 1 月 12 日、東京大学安田講堂で“2019 団塊・君たち・未来”と題して会を開催しました。本会には、北は北海道、南は鹿児島までの 35 都道府県（他に台湾も）から、総数約 500 人の参加がありました。会終了後の中央食堂での懇親会にも約 180 人が参加され熱気あふれる会となりました。

“本文”ボタンをクリックして下さい。
発表者のページへ移動します。
元に戻す場合はページ上の“戻る”を
クリックして下さい。

戻る

平野敏夫氏

中嶋久矩氏

第２部　司会は、平野敏夫氏（亀戸ひまわり診療所、労住医連副議長）と中嶋久矩氏（NPOネットワーク理事）でした。

第2部のまとめとして、平野敏夫氏は、戦争や暴力に反対し憲法・平和を守ることが重要、高齢者・認知症・外国人などの弱者の権利侵害に対し、共に戦おうと締めくくられた。

2019 東京プレ大会
「“2019 団塊・君たち・未来”の会」報告

2019 年 1 月 12 日、東京大学安田講堂で“2019 団塊・君たち・未来”と題して会を開催しました。本会には、北は北海道、南は鹿児島までの 35 都道府県（他に台湾も）から、総数約 500 人の参加がありました。会終了後の中央食堂での懇親会にも約 180 人が参加され熱気あふれる会となりました。

“本文”ボタンをクリックして下さい。
発表者のページへ移動します。
元に戻す場合はページ上の“戻る”を
クリックして下さい。

戻る

II－1
高齢者の人権と平和憲法
山下　江 氏（山下江法律事務所代表）

広島出身の山下江氏からは、反戦平和を基調とするお話しがあった。「人権の保障」が大切で、「高齢者への虐待や経済的虐待」などに法律的な観点から対応している。「高齢者の幸福追求権」を定めた憲法 13 条と戦争放棄をうたった 9 条が根幹をなしている。特に戦争は人権侵害の最たるもので、平和憲法を皆の力で守り、在宅ケア・在宅医療の一層の発展を訴えた。

2019 東京プレ大会
「“2019 団塊・君たち・未来”の会」報告

2019 年 1 月 12 日、東京大学安田講堂で “2019 団塊・君たち・未来 ” と題して会を開催しました。本会には、北は北海道、南は鹿児島までの 35 都道府県（他に台湾も）から、総数約 500 人の参加がありました。会終了後の中央食堂での懇親会にも約 180 人が参加され熱気あふれる会となりました。

“本文”ボタンをクリックして下さい。
発表者のページへ移動します。
元に戻す場合はページ上の“戻る”を
クリックして下さい。

戻る

Ⅱ−2
介護現場から社会を変える
三好春樹 氏（生活とリハビリ研究所）

三好春樹氏は、50年前に高校卒業直前に退学処分を受け、その後理学療法士として介護に関わり先導されてきた。老人病院で働いた経験から「介護の力」を実感し、「介護現場や介護の心に余裕が必要」「老人が嫌がることをしないのが介護の原則」「共同決定が必要」と説いた。「老いと死や認知症には医療は無力」で、私たちは、老いや死を受け入れ「異文化」として捉えるべきである。そして「良い介護のないところに良い医療はない」「わからない事を認めることが大切」と語った。

2019 東京プレ大会
「“2019 団塊・君たち・未来”の会」報告

2019 年 1 月 12 日、東京大学安田講堂で “2019 団塊・君たち・未来 ” と題して会を開催しました。本会には、北は北海道、南は鹿児島までの 35 都道府県（他に台湾も）から、総数約 500 人の参加がありました。会終了後の中央食堂での懇親会にも約 180 人が参加され熱気あふれる会となりました。

“本文”ボタンをクリックして下さい。
発表者のページへ移動します。
元に戻す場合はページ上の“戻る”を
クリックして下さい。

戻る

Ⅱ−3
外国人医療から見た憲法の危機
沢田貴志 氏（港町診療所）

沢田貴志氏は、フイリピンで「健康保険制度や社会保障がない状態」の悲惨な医療状況を見てきた。そのような危機は実は日本でも進行している。外国人労働者の現状をあげ、生活に困窮した外国人は医療を受けられなくなっている。在留資格を失い重症化し医療機関を訪れる。

医療費の支払いにも困窮している。これに対して現状は訪日外国人（富裕層）のための医療整備でしかない。その中で、健康相談や医療への橋渡し、医療通訳制度を整える動きを進めている。SDGｓにも言及され、差別・格差を拒む覚悟と戦略が求められている。また各地で働いている外国人との間では、通訳制度が必要だと言われた。

2019 東京プレ大会
「“2019 団塊・君たち・未来”の会」報告

2019 年 1 月 12 日、東京大学安田講堂で “2019 団塊・君たち・未来 ” と題して会を開催しました。本会には、北は北海道、南は鹿児島までの 35 都道府県（他に台湾も）から、総数約 500 人の参加がありました。会終了後の中央食堂での懇親会にも約 180 人が参加され熱気あふれる会となりました。

“本文”ボタンをクリックして下さい。
発表者のページへ移動します。
元に戻す場合はページ上の“戻る”を
クリックして下さい。

戻る

Ⅱ－4
下流老人の問題提起とその意義
藤田孝典 氏（社会福祉士　NPO 法人ほっとプラス）

藤田孝典氏は、まず「団塊世代は私たちの世代に社会保障制度を残して欲しい」と訴えた。高齢者のうち「衣食がたりない」という貧困率が2割に達している。単身高齢者では可処分所得が年122万円以下の方が4～5割いる。高齢期は誰もが貧困に陥る可能性があるが、権利擁護を求めない人も多い。高齢者では、生活保護の基準以下（憲法25条違憲状態）の「下流老人」が3割近くいる。貧困に陥る高齢者の多くは「収入」と「貯蓄」がないだけでなく、「頼れる人」がいないという3つの「ない」がある。従って高齢者は働き続けないと生活できなくなっている。NPOでは、集まる場所を作り、生活相談や福祉制度利用支援、住まいの提供を行っている。

2019 東京プレ大会
「“2019 団塊・君たち・未来”の会」報告

2019 年 1 月 12 日、東京大学安田講堂で “2019 団塊・君たち・未来 ” と題して会を開催しました。本会には、北は北海道、南は鹿児島までの 35 都道府県（他に台湾も）から、総数約 500 人の参加がありました。会終了後の中央食堂での懇親会にも約 180 人が参加され熱気あふれる会となりました。

“本文”ボタンをクリックして下さい。
発表者のページへ移動します。
元に戻す場合はページ上の“戻る”を
クリックして下さい。

戻る

Ⅱ－５
「域包括ケア・石巻市の経緯と現状」
長　純一 氏（石巻市立病院開成仮診療所）

長純一氏は、東日本大震災から一年後に「いのちと暮らしを大事にした復興に関わること」を目指し被災地石巻に赴任。そこで、行政に入り地域包括ケアの重要性を発信した。開設時に厚労省の在宅医療連携拠点の指定を頂き「復興の街づくりと地域包括ケア」が石巻市の重要政策となった。

多くの省庁から国のモデル指定を受け行政職としてその推進役を担っている。被災地では地域社会が崩壊し逆に重介護の人は少なくなっているが、メンタルケアも必要な状態。長先生自身の経験や見方について忌憚ない話しをされた。最後に、若い人たちはまとまって進むべきではないか、「健康の社会的決定要因」を意識しプライマリケアを実践するべきだと話された。

2019 東京プレ大会
「“2019 団塊・君たち・未来”の会」報告

2019 年 1 月 12 日、東京大学安田講堂で “2019 団塊・君たち・未来 ” と題して会を開催しました。本会には、北は北海道、南は鹿児島までの 35 都道府県（他に台湾も）から、総数約 500 人の参加がありました。会終了後の中央食堂での懇親会にも約 180 人が参加され熱気あふれる会となりました。

“本文”ボタンをクリックして下さい。
発表者のページへ移動します。
元に戻す場合はページ上の“戻る”を
クリックして下さい。

戻る

Ⅱ－6
医学教育はどうあるべきか
阿部知子 氏（衆議院議員・立憲民主党）

阿部知子氏は、医学部での不適切入試、女性差別、女性に対する性被害を列挙した。こうした「不祥事の背景」を分析され、閉鎖的、モラル低下、常識麻痺、教養課程の軽視を掲げた。医学教育に「医の倫理」を入れ、高い倫理観、人権意識の醸成、女性の人権尊重が重要とされた。その上で、「病院拠点型ワンストップセンター」を全国の大学病院・特定機能病院に設置する法案を考えている。また最近の政治的な論点について、本来国民の関心事とはずれている政治になっていると危惧された。

“本文”ボタンをクリックして下さい。
発表者のページへ移動します。
元に戻す場合はページ上の“戻る”を
クリックして下さい。

戻る

黒岩卓夫 氏

第３部　未来を語る　司会は「地域医療研究会」「在宅ケアを支える診療所・市民ネットワーク」両団体の設立に関わられた黒岩卓夫氏（医療法人萌気会）に依頼しました。

第2部のまとめとして、平野敏夫氏は、戦争や暴力に反対し憲法・平和を守ることが重要、高齢者・認知症・外国人などの弱者の権利侵害に対し、共に戦おうと締めくくられた。

“本文”ボタンをクリックして下さい。
発表者のページへ移動します。
元に戻す場合はページ上の“戻る”を
クリックして下さい。

戻る

鎌田　實 氏

Ⅲ－1
「地域包括ケアと健康民主主義」
鎌田　實 氏（諏訪中央病院名誉院長）

鎌田實氏は、諏訪中央病院への赴任時の状況をまず話された。脳卒中多発の地域で年間80カ所で講演し、その効果もあり長野県は長寿県になった。医学部1年の時、全共闘運動に関わり「普通に医者になるのはおかしいな」「自己否定」も意識してこうした活動を行ってきた。

諏訪中央病院は大学の医局支配ではなかった。「誰かのために何かをできる」という考えで「１％の力」が大切だ。同病院は当初4人の医師だったが現在は102人の医者が集まるマグネットホスピタルになった。プライマリヘルスケアから健康民主主義が育った。

イラク戦争に反対したが何かしないといけないと思い、JIM-NETを作った。「私たちは言うべきことを言う」「やるべきことをやる」ことが大切だ。

鎌田版の「アリとキリギリス」では「希望や友だちが大切だ」と訴えた。「脱・呪縛」も訴えた。最近は不自由な時代になったが面白いことも可能だ。年をとるとしがらみが無くなるので、もっと元気を出すことが必要だ。その意味で「脱・呪縛」「脱・自縛」という考えが大切だ。

私たちは30年程前から楽しい「地域包括ケア」として、健康づくり運動をしてきた。今後日本は間違いなく多死時代を迎えるが、地域で一人ひとりが自らの死生観を持つことが大切。それぞれが自分の判断をすれば道が開ける。仲間作りや外に出ることも大切だ。

チェルノブイリ原発事故後にベラルーシを訪れ、白血病の少年がパイナップルを食べたいと言った。看護師が町中を歩き探し出した。この少年が亡くなった後にお母さんから大変感謝された。イラクのモスルの難民キャンプでも診療所を作った。ここでも子どもたちが戦渦で被害に会っていた。がんで亡くなった少女は生前に「勉強を教えて貰ったこと」に大変感謝してくれた。彼女が描いた絵が日本で売れて他の子どもが助かると言って亡くなった。「私は死ぬけどイラクの他の子どもが助かるからうれしい」という希望を抱いた。希望はどこにでもある。まだまだ投げ出してはいけない。その絵が入った「チョコ募金2019」に協力してもらいたい。

黒岩卓夫氏（医療法人萌気会）

私は安田講堂に入るのは入学したとき以来今回が2回目。今大会の特徴は、①団塊世代を語る②50年の世代間の連携を期待する会である。未来の若い世代にテーマを委ねることが大切。私は満州から帰った戦中派。ランプ生活、過疎で育った。60年安保では樺さんが亡くなり私が大けがをした。その後、雪国に集まり地域医療を担い在宅医療を行ってきた。今井澄さんの「理想の医療を語れますか」を紹介。彼はその中で医療改革の処方箋を書いていた。地域包括ケアの5大要素を描いた植木鉢の図の底部には、「平和」の2文字を加えるべき。「安心」が必要で、何よりも平和が地域社会の土台である。

相澤力氏（湘南中央病院）

「ふくしま再生の会」は50年前に安田講堂で戦った3人が中心で進めてきた。飯舘村で健康・医療・介護のチームを作って活動している。2011年から帰還困難期、仮設住宅訪問期、避難解除後と3期間に分けられる。「健康いちばん！の集い」を２月に１回行い、「共感と協働」を合言葉に活動している。

上野千鶴子氏（東京大学名誉教授）

50年前のあの日は京大バリケードの中にいた。当時の大学生は学年の14％だった。その大学生のうち全共闘運動にかかわったのは20％だった。在宅医療は社会運動であるという考えに共感した。50年は社会運動が途絶えるに十分な期間である。リーダーの交代期が来ている。世代を繋ぐ＝縦の連帯が大切。社会運動のノウハウを伝承すべき。また、消費者教育が重要で、市民が入っていること＝横の連帯も大切である。

前田和男氏

全共闘運動から50年、25年目に「全共闘白書」を作製し共感された。現在「続全共闘白書」を作るべく「アンケート調査」を行っているので答えて頂きたい。ネットでも回答可能です。

本会の終了に当たり会場からの発言を求めました。8人の発言者の趣旨は以下の通り。

① 釜が崎で2.7万人のホームレスを支援し、無料診療を行っている。
② 社会をよくして行こうというネットワークの意義を再確認し、今後「君たち」として子どもたちにも引き継ぎたい。
③ 「命と暮らしと人権」がキーワード。医者は「命しか考えない」というのではなく「暮らしと人権の意識」が大切。
④ 団塊世代は今後も未来に向けて発信していただきたい。学生の中にも関心がある者がたくさんいる。
⑤ 全共闘世代のど真ん中だったが、その後足下で活動しようと思った。介護の解決にはボランティア活動や地域住民参加が必要。後継者にどう引き継ぐのかも課題。
⑥ 何十年も良いことをやっている人は良い人である。医療と暮らしを守る人は仲間なので、お互いに評価し合い協力して行きましょう。
⑦ ホスピスは人権運動であるという考えを学び在宅に向かった。戦争が近づいてきている印象がある。世代を超えて考えていきたい
⑧ 奥さんが線維筋痛症で要介護3。今後はヘルパーさんに素直に「ありがとう」を言い、性格の良い高齢者になりたい。

“本文”ボタンをクリックして下さい。
発表者のページへ移動します。
元に戻す場合はページ上の“戻る”を
クリックして下さい。

戻る

三嶋泰之 氏

「第 25 回 全国の集い in 東京 2019」紹介

三嶋泰之 氏（医療法人佐倉の風 さくら風の村訪問診療所）

千葉県佐倉市で在宅医療を行っています。「みんなで作る地域包括ケア、地域共生社会」に向けて頑張りたい。皆さん性格が悪くても（魔法の言葉である）「ありがとう」という感謝の気持ちを伝えましょう。

“本文”ボタンをクリックして下さい。
発表者のページへ移動します。
元に戻す場合はページ上の“戻る”を
クリックして下さい。

戻る

堂垂伸治 氏

＜大会を終えて＞

大会長　堂垂伸治

当時の全共闘は封鎖後の安田講堂を「解放講堂」と呼んでいました。本会もその呼称に相応するかのように、解放感にあふれた雰囲気で進み、極めて踏み込んだ自由闊達なご発表やご発言が相次ぎました。

大会に参加された殆ど全ての方々から「満足した」「良かった」という評価を頂きました。登壇された方々、また大会を支えられた皆様方に深く感謝申し上げます。

今回の会は、「団塊世代から次世代へ」という趣旨の会でした。しかし、私が強く印象に残るのは、長純一氏が言われた「私たちはヘルメットの色の違いがわからない」という言葉です。これは逆に「次世代から団塊世代へ」の貴重な提言だと感じました。本会も「平和と人権と安心」という共通の目的で、国民・市民が「大同団結する会」のきっかけとなれば幸いです。